【小学生高学年礼拝コンテンツ】

創造原理④責任分担｜神様と共に生きよう

今週は、「私たち人間の責任分担」というお話です。

責任分担というと少し難しいですが、「自分ができることを、最善を尽くしてする」ことを責任分担と言います。例えば、学校でも、掃除当番があったりします。自分がするべきこと、しないといけないことを一生懸命することを責任分担といいます。

同じように、大きく見て、人間の責任分担は何なのかというお話です。

まず、神様がこの宇宙を創造された時、どのようにつくられたのかを見てみましょう。

神様が「宇宙よ、できなさい！」と言ったらパッとできたと思いますか？　宇宙の始まりは今から何年前でしょう？　科学では138億年前に宇宙が誕生したと考えられているそうです。宇宙は長い期間をかけてつくられたのです。ということは、一つ一つのものを完成させるために、期間が必要だったということが分かります。

自然を見てみると、蝶は卵から青虫になり、青虫はさなぎになり、さなぎから蝶になって空を飛び回ります。さくらんぼの木は、種から芽が出て、大きな木に育って花が咲き、実を結びます。卵から成虫になったり、種が成木になるまでの期間を「成長期間」と言います。そして、成長期間を越えて完成するようになっています。

人間も同じように、赤ちゃんとして生まれて、幼児、少年、青年と成長していきます。そして、立派な大人になって神様の前で結婚し、すばらしい家庭をもって子供を生んでいくのです。

しかし、人間と自然界の万物では違うところがあります。動物、植物、昆虫などの万物はエスカレーターに乗ってるように、月日が経つにつれ自動的に成長しますが、人間の、特に心の部分は、階段を一歩一歩登るように、自分の力で成長していかなければならないのです。

なぜ、そのようになっているのでしょうか？

ひとつのたとえ話をします。お父さんが会社の社長をしているとしましょう。お父さんは、息子が可愛くて愛しているので、息子に会社を継がせたいと考えます。しかし、息子がかわいいからといって、すぐに社長にならせるでしょうか。社長になれば、会社を上手に管理しなければいけないですから、仕事を覚え、働かないといけません。息子が一生懸命働いて、努力して、責任分担を果たした時に、お父さんは社長の座をゆずり、自分の財産をすべてあげるのです。それが親の愛です。

神様も同じように、人間に創造力と、万物の主人になる権限を与えたかったのです。なので、人間には成長期間において、責任分担が与えられました。

創造力ということについて見てみましょう。神様はいろいろ創造されましたね。人間にも創造する力を与えられました。私たちは、きれいな絵を描いたり、歌を作ったりすることができます。これは人間にしかできないことです。人間が万物の主人になれるよう、神様が資格を与えたかったからです。私たちが万物を愛せば、花がきれいに咲いたり、海はきれいになります。反対に、自然をきちんと管理しなければ、花も枯れ、海も汚れます。

神様は、創造目的完成のために、長い年月をかけて、宇宙を創造されました。そして最後に人間を創造し、責任分担を与えて、一緒になって完成しようとされたのです。

皆さん、雪だるまを作ったことがありますか？お父さんやお母さんと一緒につくったとすると、お父さんお母さんが大きいものを作って、最後の仕上げで目・鼻・口を皆さんがつけるようにさせて、完成させます。そして、お父さんお母さんは「よくやったね」と喜んでくれるのです。

積み木のピラミッドも、お母さんが下から積み上げて、最後の１つを子供が積み上げて、お母さんと子どもが１つのピラミッドを完成させます。親というのは、子どもにあと１つだけ残しておいて、それをさせ、全部を一緒にしたと見るのです。

神様も同じように、たくさんのことをされた後、最後のわずかな責任分担を人間に任せて、それができて初めて、この宇宙が完成するように、人間に責任を与えてくださいました。それが、神様の愛です。

人間の責任分担は、神様に比べればとても少ないものです。しかし、人間にとっては大きなその責任を果たしたとき、神様の夢もなされ、完成するようになっています。

私たちも、自分がするべきこと、しないといけないことを一生懸命取り組んで、神様の願われる子女となるために、神様と共にある生活をこころがけてみましょう。